

総務常任委員会所管事項調査報告書

1 実施年月日 平成28年5月10日（火）～5月11日（水）

2 視察場所及び視察項目

(1) 兵庫県姫路市 視察項目：消防防災運動会（まもりんピック）

(2) 京都府長岡京市 視察項目：地域コミュニティ活性化事業

3 出席者 副委員長 橋田夏枝

委員 宮脇俊彦、斉藤裕樹、前田秀資、山田昌紀、越水清

同行職員 青木優（防災課防災対策係長）

佐伯明（市民協働課課長）

4 視察の概要

◎兵庫県姫路市

(1) 市の概要

① 人口、面積

人口 541,881 人、面積 534.43 km²

② 平成26年度決算規模

ア一般会計 歳入 210,259,875 千円、歳出 202,837,718 千円

イ歳入内訳

・市税 95,970,339 千円 市税構成比率 45.6%

・地方交付税 16,262,658 千円、地方交付税構成比率 7.7%

・市債額 18,099,500 千円、市債構成比率 8.6%

③ 特徴

姫路市は、明治22年の市政施行以来、数次にわたって周辺地域を編入して市域を拡大してきた。兵庫県の南西部に位置し、北は中国山地の雪彦山、南は瀬戸内海に浮かぶ家島諸島を擁している。平均気温は15℃前後、年間降水量は1200ミリメートル程度で温和な瀬戸内気候区に属す。主要国道や広域幹線道路が整備され、鉄道網が東西北とつながり、交通の要衝となっている。

臨海部には、重厚長大型企業が立地しており、市内外企業の支援策も充実させ、更なる企業誘致・企業立地の推進に努めている。平成5年には、我が国初の世界文化遺産に指定された国宝姫路城といった歴史的建造物も多く有しており、平成26年には姫路市ゆかりの黒田官兵衛をテーマにしたNHK大河ドラマ

マ「軍師官兵衛」が放映された。

(2) 視察の目的

現在まちづくり検討会議のテーマである「防災教育・訓練」において、「地区運動会に防災に関する競技を取り入れたらどうか」という案があり、市に対して提言を行うことを議論していたが、姫路市が実際に防災運動会を市主催で実施されているということがわかり、今回運動会の内容や実施にいたるまでの経緯を調査することとなった。

視察概要 「消防防災運動会（まもりんピック）について」

① 実施に至るまでの経緯

「市民を対象に、消防防災に関する内容の競技で運動会を実施したらどうか」との意見があり、平成18年に消防防災関係の各種団体を一堂に会して開催した。その際、参加者にアンケート調査を行った結果、好評であったため継続事業として開催することとなった。

② 実施に向けての取組の経緯

市の防災訓練は毎年行っているが、防火・防災技術において、もっと市民が楽しみながら習得する催しについても検討が必要ではないかという視点から、屋内で実施していた「姫路市市民防災のつどい」に代わり、運動会形式で屋外において平成18年に「防災運動会」を試行的に開催した。

平成20年度には、市内全域を5ブロックに分け、11月に各地域で予選会を実施し、翌年3月に陸上競技場で各ブロック代表による本大会を実施した。また愛称も公募し、「まもりんピック姫路」に決定して、商標登録を行った。以後、22年度、24年度、26年度と隔年実施し、22年度以降は、屋内（中央体育館）で午前中のみ開催とした。

平成26年度は、過去3回の実施により、市内の全地域連合会が参加し一巡したことから、開催内容を見直し、子どもから高齢者までの幅広い市民参加や自主的な参加を一層促そうと「一般公募による参加者募集」も取り入れ、気軽に参加できるイベントとして開催した。

③ 本大会開催に対する考え方

- ・「まもりんピック姫路」を幼年から高齢者等でも楽しくできる競技とする。
- ・市民意見等を踏まえた「煙体験」を取り入れた競技内容とする。
- ・市内各地域のコミュニティ防災倉庫に保管している各防災資機材等を活用した協議内容とする。

(3) 質疑応答

Q) 市民参加の動機付けは、また工夫した点とは。

A) 自主防災組織に参加してもらうため、自治会連合会の総会で了解をとった。自治会長宅にも足を運んで説明を行うなどし、実施に向けての苦労もあった。

Q) 26年度は手法を変更したが、その理由とは。

A) 消防署を一巡し今後どう変えていこうか検討した際に、幼年消防クラブ育成や婦人消防クラブ育成に目を向け、一般公募も取り入れた。

Q) 担架種目の安全性の確保は。

A) 安全管理のため、消防団員が横に付いており、ヘルメットやプロテクターも使用している。

Q) 婦人消防クラブや幼年消防クラブは、こういった組織か。

A) 婦人消防クラブは昭和57年に結成され、結成当初は家庭を守ることを目的としたが、現在では地域を守るために組織されている。現状として、組織の構成員数は減少傾向にある。

幼年消防クラブは、保育園・幼稚園などをベースに組織されており、法被やヘルメットなどを支給している。

Q) 「まもりんピック姫路」の実施にあたり、庁内連携は怎么样了のか。

A) 企画・立案は消防部局のみで行い、当日の運営は他部局の協力を得て実施している。

Q) 参加人数は、予選会を含めた人数か。

A) 参加人数(1332人~2439人)は、予選会を含めず当日参加者(観戦者・見学者を含む)のみの人数である。

Q) 「まもりんピック姫路」開催によって、市民の防災意識向上に結びついているか。

A) 地域の運動会で防災種目が入り入れられるようになったり、一般参加者も増え、県の補助金が出たり、総務大臣表彰も受賞した。市民の防災意識は少しずつ浸透していると認識している。

Q) なぜ、「まもりんピック」に取り組むようになったのか。

A) 従来は、防災訓練以外に「講習会・功労者表彰」を実施していたが、「面白くない」といった意見があり、楽しくやれるものということで、発案された。

Q) 幼年消防クラブが参加する際の保護者の関わり方は。

A) 保護者の関わりは特にはないが、今後保護者や先生方も参加できるように工夫していきたい。

Q) 毎回開催ごとに工夫や改善を行っているが、どのように変更を行ったのか。

A) 毎回アンケートを実施して、その声を反映している。市のトップの考えも取り入れ、専門家を交えて、参加状況や市民の声の分析も行っている。また、若手職員を投入して、プロジェクトチームを発足し、企画をおこなっている。

Q) 阪神淡路大震災の経験が活かされているのか。

A) 本市は、直接的な被害を受けていないが、阪神淡路の際は被災地に救援にいった経験がある。婦人防災会による炊き出しも大いに喜ばれた。東日本大震災や先日の熊本地震も救援に駆けつけており、被災地での経験として培われている。

Q) 隔年で「まもりんピック」を開催している理由は。

A) 毎回地区予選会を行っているので、毎年実施だと負担が大きすぎる。一回の開催に700万～800万円の経費を要することもあり、隔年開催にしている。

Q) 来年度に向けての工夫は。

A) 市民公募の取り組みや子ども対象の企画は次回も行い、ゆるキャラによる綱引きなどの新企画も検討している。

(4) 視察後の考察（所感）

姫路市職員の冒頭のあいさつで、「防災の取り組みを見ると、自治体の成熟度がわかる」とあり、姫路市の防災に対する姿勢が伝わった。従来行っていた「講演会・功労者表彰」は面白くないという市民の声を率直に受け止め、楽しい催しものとして防災運動会「まもりんピック姫路」を企画したことに対し、市民の声をしっかりと受け止める市の姿勢に感動した。

自治会の理解を得るまで「自治会長のもとへ何度も足を運んだ」という言葉は印象的であった。通常の地区運動会が行なわれている中、更に新企画として

防災運動会を行うことは自治会にとって負担が増え、大きな壁にもなる。消防局を中心とした地道な説得により開催に至ったことに感服した。

防災運動会の内容もかなり趣向を凝らしたものであり、子どもから高齢者まで誰でも気軽に参加できるものであった。市民が楽しみながら習得する催しという視点、および保育園や幼稚園にも参加を集い、52の「幼年消防クラブ」が結成されている。ここに「まもりんピック」成功の秘訣があるのだろうと感じた。防災運動会は、競技に参加することで楽しく防災知識を習得し、防災意識の向上につながる。また地域住民同士のコミュニティ活性化に大きく貢献できる。姫路市は、若手職員を起用してプロジェクトチームを結成し毎回マンネリ化しないように新企画を考えている。

本市で実施する場合、消防本部だけで行うのは正直難しいが、教育委員会、消防本部、防災課、健康管理課などの横の連携によって実施可能になるのだろうと実感した。

本市においても同様の事業を部分的にでも導入できないだろうか。その理由として、防災意識の高い啓発効果が期待できる、隔年ごとの開催にして内容を臨機応変にできる、創意工夫により予算面もあまり問題がない、などが挙げられる。あるいは、単独の開催に限らず、他事業（例えば地区運動会）の中での競技として導入可能と思われる。

今回の姫路市の訪問は、まちづくり検討会議においても、非常に有意義な視察となった。



ひめじ防災プラザ内



姫路市消防局にて説明を受ける



ひめじ防災プラザ内を視察

◎京都府長岡京市

(1) 市の概要

① 人口、面積

人口 80,555 人、面積 19.17 km²

② 平成 26 年度決算規模

- ・一般会計 歳入 28,356,755 千円、歳出 27,448,270 千円
- ・歳入内訳

1. 市税 12,419,166 千円、構成比 43.8%、
2. 地方交付税 2,360,326 千円、地方交付税構成比率 8.3%
3. 地方債 3,086,500 千円、構成比 10.9%

③ 特徴

総面積の 60% が平坦な可住地で、残りは西山山地。歴史的には「長岡京」の都がおかれた土地で市内には歴史的建造物が多く存在し、たくさんの観光客が訪れる。昭和 40 年代より大阪と京都のベッドタウンとして発展し、昭和 47 年に市制が施行された。

交通は、東部を JR 東海道本線、中央部を阪急京都線がそれぞれ並行して通過し、また名神高速道路、国道 171 号が通り、京都縦貫道自動車道の IC が開業するなど、交通の便が良い。特産物としては京たけのこが有名である。また、毎年 11 月には、明智光秀の娘、細川ガラシャをテーマにした「長岡京ガラシャ祭」が市内一円で盛大に開催されている。

(2) 視察の目的

当委員会で議論を進める上でも、まちづくりの発展のためにも地域のコミュニティが欠かせないとの共通認識である。

長岡京市は、自治会を中心とした地域コミュニティを小学校単位で進めており、強い関心を抱いた。本市の市民協働におけるヒントが長岡京市にあるのではないかという想いで、調査することとなった。

(3) 視察概要

「地域コミュニティ協議会について」

現状：各自治会では、「自分たちの住む地域をより住みやすい地域に」という共通の想いを持って、親睦事業や安心安全活動、環境美化・整備、文化・体育の振興など様々な活動を通して地域コミュニティを形成している。

目的：小学校区単位で各種団体や個人がそれぞれ活動しているが、従来は横のつながりが少ない状況にあった。もっとフラットな形で各種団体が情報交換などをしていくことによって、各活動の関係が横につながるきっかけをつくり、地域コミュニティの活性化を促すことを目的としている。

当日は、長岡京市役所で市民協働部より事業の概要説明を受けた後、「長岡京市第七小学校コミュニティ協議会」の現地視察を行った。

平成28年5月現在、地域コミュニティ協議会が設立状況にあるのは5校区であり、全市10校区のうち半分になる。そのうち4校区は、結成されている総合型スポーツクラブのクラブハウスと拠点を共用して活動を行っている。設立されている5協議会は、地域内の全世帯への会報の配布や防災訓練、高齢者対策事業のほか、各地域の実情にあった活動を展開している。具体的には、校区祭、夏祭り、河川清掃、交通安全教室、校舎周囲清掃、井戸掘削などである。

(4) 市から協議会に対する支援

●地域コーディネーターの要望がある協議会に対し1名配置

(現在各地域に各1名、計5名を配置)

●補助金を交付 (年間50万円)

●備品などの整備 (PC, 事務机等)

(5) 質疑応答

Q) 各自治会による夏祭り等のイベントがある中、コミュニティ協議会によるイベントの開催が自治会にとって負担にならないか。

A) 長岡京市では、もともと小学校単位の祭りがおこなわれており、自治会の祭りとは、住み分けができています。

Q) 自治会とコミュニティ協議会のそれぞれの立ち位置は。

A) 各協議会の成り立ちや母体となっている団体も異なるため協議会ごとにそれぞれ違うと理解しています。

Q) コーディネーターには、報酬はあるのか。

A) 月約20万円。

Q) コーディネーターはどのような人になるのか。

A) 一般市民で、市役所職員OBや地域に精通している人など。

Q) 自治会加入率は。

A) 現在 59.2%

Q) 小学校区をまたいでいる自治会の対応はどのようになっているのか。

A) 担当を分けて、仕事の分担をしていただいているが、防災訓練などで課題は出ており、今後検討していく必要はある。

Q) 地域包括センターとの関連は。

A) 地域包括センターは、中学校区ごとに組織されているため、コミュニティ協議会との関連はない。地域福祉については、今後整備を進めていかなければならない大きなテーマとして把握している。

Q) 小学校内にある手堀による井戸の堀削についてご説明いただきたい。

A) 上総堀という手法で手掘りをした。地域住民の活性化を目的としている。

(6) 視察後の考察(所感)

地域コミュニティ形成には、本事業は有効な施策ではあるが、平成22年より取り組まれて26年までに長岡京市の10校区のうち、コミュニティ協議会が設立されているのは半分の5校区にとどまっており、27年度以降は設立されていないという事実をみると地域格差があり、難しさも感じられる。長岡京市では、自治会加入率がおよそ半分の50%強ということをもみても、自治会の負担を減らそうとする苦肉の策に思える。

準備段階から各種団体や地域住民に趣旨を周知し調整を図る有能なコーディネーターという人材が必要であると思うが、持続可能な事業にするためにも後世の育成が重要であり、今後の課題になると感じた。

現地視察を行った第7小学校区コミュニティ協議会では、校庭の芝生化なども実現し、その後の管理も実施しており、大変理想的な形となっている。また、校舎内にコミュニティ協議会で利用できる部屋があり、学校と連携して地域コミュニティづくりができる環境になっている。コミュニティ協議会の活動や総合型スポーツクラブの活動で関係者が校内に出入りすることがあるが、防犯面

での対策はどうなっているのか疑問に思った。

小学校区単位で地域コミュニティ協議会が円滑に組織運営されれば、地域住民の交流や相互理解に大きな役割を果たすと同時に、自らの地域や人に対する愛着が高まり、日々の生活を豊かにすることができる。災害発生時における地域住民との連携の必要性が叫ばれる今日、地域コミュニティ協議会の果たす役割というのも大きくなる。反面、組織作りが進展しない理由を分析して対策を練ることも必要だろう。

地域間格差を是正しながら、本市でもどのように地域コミュニティを形成できるのか。関係行政部署や首長、議会の果たす役割も大きく影響すると感じた。また、伊勢原市の自治会加入率は80%以上と高い水準を保っているが、年々減少傾向にある。自治会の加入率が低下する前に、現在の地域コミュニティをどう維持していくのか、早急に話し合うことが必要だ。行政と議会ともに知恵を出し合って、伊勢原市の地域活性化に努めてまいりたい。



長岡京市役所内で説明を受ける。



長岡京市役所



芝生化された小学校の校庭を視察